

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みんなの居場所二ーム		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 9日		~ 2024年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 33
○従業員評価実施期間	2024年 12月 23日		~ 2024年 12月 26日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者が送り迎えをしてくださるので、頻繁に家庭の様子を聞くことができる。また、問題が起きてもすぐに対応できる。	送迎が無い理由は、子どもの困り感を瞬時に保護者との共有をしたいので、送迎をなくしている。瞬時に対応することを心掛けている。 また、家庭療育を進めている。	今後も、困り感などを瞬時に考えるためにどの職員でも対応できるように研修などの機会を増やす。また、他の機関との連携や協力を強めていきたい。
2	それぞれの個々の特質に合った、プログラムの提供。プログラムを大きくカテゴリーに分けているので、子どもも曜日によって何をするのが大体わかってくるので、安心できる。 また、課題をしないことがと言う事がない。	何をするのか不安にならないように、プログラム内容を曜日によって決めている。子どもが興味を持つ内容、経験など体験の場を設けている。	プログラムがあわない、もしくは成長のため、他のプログラムに変更などできるよう1年に1回、本人の希望による話をしている。
3	保護者がすぐに相談できる環境になっている。	相談は保護者の要望によってすぐにできる体制を整えている。	日頃から家族支援の強化をはかり、記録をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎がない。	意図して送迎が無いのだが、電話の対応の際「送迎ないと困る。」と言われたときが課題。	今後も、送迎は難しい。ただ、年齢が上がることで、自力で事業所にこれるような練習をしている。
2	週1, 隔週、月1の子どもがいて避難訓練など参加できない場合がある。		何らかの形で参加できるように体制を整える。
3	地域の人と触れ合う機会がない。	送迎がないので、一度に集まって全員で行動できない。また、地域の行事情報が入らないことが多い。	情報の収集方法を考える。また、一度に集まって行動できるような行事を考える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 みんなの居場所二ーム

公表日 2025年1月31日

利用児童数 43

回収数 33

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	94%	6%			暴れる子どもにとっては少し狭い時もあります。	隣の運動の部屋にご案内しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	97%			3%	地震の際の防災の見直しをお願いします。	建物の構造上バリアフリーにはできず、防災意識の向上をスタッフ、子どもらと学ぶ機会を設けます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%				活動的に遊べる場と制作の場が湧けてあるのでいいです。	子どもらの気分の切り替えのために、部屋を分けております。靴をはいたりする間に気持ちの変化が起こる場合もあります。
適切	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%				子どもの成長過程を見ながら支援をしていただいている。	

必要な支援の提供	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	94%			6%		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	97%	3%				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	51%	15%	6%	28%	週が違う子どもとの交流の場はあります。	プログラム上、なかなか交流がはかれていないのが現状です。また、地域の交流するにはどうすればいいのかを他事業所に聞いて、取り入れたいと思います。
保護者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	94%	3%		3%		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	94%	3%		3%	放課後等デイサービス計画とは何かがわからない。	個別支援計画の事と説明させていただくと納得いただけました。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	82%	6%	3%	9%		放課後等デイサービスのペアレントトレーニングはしておらず、送迎の際に家庭療育について個々対応させていただいております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	97%			3%	いつでも連絡が取れるので嬉しいです。	困ったことがあった時は、すぐに連絡ができる体制を心がけております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	85%	3%	6%	6%		保護者会、イベント、兄弟支援の場などあるのですが、教室掲示周知なので、月1利用の方などへの連絡不行き届きがありました。申し訳ありません。今後は、そのような方には個々に連絡を入れたいと思います。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	82%	6%		12%	教室に見やすく掲示されてみやすいです。	今後も周知に心がけます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	82%	3%		15%	説明してもらっています。	周知が行き届いていないので、今後周知いたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	79%		3%	18%	避難訓練、引き渡し訓練をお願いします。	週1回ご利用の方は、訓練時と当たらないことがあるので、今後は確認をして訓練をしたいと思っています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	91%		3%	6%		防犯対策などスタッフの訓練はあります。ただ、子どもや保護者にもっと説明をすることを今後考えていこうと思います。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	88%	6%		6%		
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%				「次いつ？」と何度も聞くくらい通所を楽しみにしています。毎日ニコニコです。	

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%				心安らく場所になっているようで母も心配なことはすぐに共有、相談できます。一番楽しい場所です。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				ずっと通いたいです。	子どもが社会に出て楽しく生活できるよう、サポートさせていただきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	みんなの居場所二一ム
------	------------

公表日 2025 年 1月 31日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		バリアフリーではない。個々に応じて対応している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			
営	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			

未 務 改 善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%	第三者による評価は受けたことが無い。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		今後、HPの見直しをはかる予定。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50%	50%		今後、経験により、立案をチームでできる体制となる予定。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100%			地域交流の機会は少ないが、参加できなかった職員には説明をしている。年1, 2回の交流がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%			
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%				

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	75%	25%		職員間に話題を提供して周知を促す。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	25%	75%		積極的にはしていない。要請、もしくは必要性があれば、適宜に行動している。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		100%		今後も要請があれば、すぐに対応できる体制は整えている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		100%		センターの研修などは、ひつような職員が参加している。もっと周知が必要。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	幼児教育は地域の子どもたちが参加している。	放課後の職員への周知をする。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	75%	25%		職員への周知の必要性。また、今後、協議会への職員の参加も検討する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	75%	25%	児童発達支援向けは研修がある。 保護者会がある。	放課後等デイサービス向けのペアレントトレーニング等検討。 保護者会など周知の方法を検討。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		必ず、契約時にすべての説明をしている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			いつでも連絡ができる体制を整えている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	75%	25%		SNSなどの使用を検討。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%			

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%				